

術後対麻痺に対する ナロキソン の使用について

実施内容	術後に発生した対麻痺（下肢運動障害）に対し、原因の一つとしてオピオイドによる神経抑制が疑われる場合に、ナロキソンを静脈内投与する。
対象患者	・術後に新たに発症した対麻痺または下肢運動障害を認める患者
承認日	2026年7月8日（承認外医薬品使用評価委員会 承認）
実施期間	承認日以降、継続的に実施する
目的・概要	術後に発生する対麻痺は、脊髄虚血、血腫、神経損傷などの重大な原因を含むため、迅速な鑑別と対応が必要である。脊髄虚血により神経抑制が生じ、運動障害として出現する場合がある。ナロキソンは、麻薬拮抗薬として用いられているが、内因性オピオイドに対しての拮抗作用から脊髄の血流改善の効果がある。本来はオピオイドによる呼吸抑制などに対して使用されるが、薬剤性の神経抑制が疑われる場合の診断的・治療的介入として使用されることがある。本適応外使用は、可逆的な原因の早期同定および症状改善を目的として、重大な器質的病変との鑑別を並行して行いながら、慎重に実施する。
予想される不利益と対策	【予想される不利益】 ・オピオイド製剤の鎮痛効果の消失による疼痛増強 ・交感神経刺激による血圧上昇、頻脈 ・悪心・嘔吐 ・まれに不整脈、肺水腫 【対策】 ・少量からの漸増投与とし、過度な拮抗を回避 ・疼痛の再増悪に対して適切な鎮痛薬調整を実施 ・バイタルサイン（血圧、心拍数）の継続的モニタリング ・症状改善の有無を速やかに評価し、無効時は他原因の精査を優先 ・異常時は速やかに投与中止および適切な対応を実施 （受付時間：平日 9:00～17:00）